

選者 川口孤舟

吟行参加 柿崎忠彦 久米五郎太 在間千恵 佐藤ただしげ 星田啓子 山崎亜也

投句・選句 川口孤舟 熊谷くにお 小早健介 後藤とみ子 田島正己 土谷堂哉 西澤國護

福島正明 古川百合子 古田昇 山田けい子 山内天牛 渡邊盛雄

選句のみ 梅崎くすを 重枝孝岳 庄司龍平 高橋清子 橋口隆 早川允章 山本三恵



【互選句】 ◎が付されている句は孤舟選者の選 ○は選句した会員による天(特選)

七点

緋牡丹の己が重みを持て余す

孤舟

(く・千・た・堂・正・昇・百)

老鶯や二湖を眼下に賤ヶ岳

堂哉

(く・健・清・允・正・亜・盛)

◎五月来し九十七の誕生日

天牛

(孤・五・龍・○隆・允・啓・盛)

六点

石仏の笑みの濡れゆく走り梅雨

健介

(と・清・己・啓・百・三)

五月病ベンチに重きスーツかな

全

(くす・忠・○孝・隆・允・け)

風薫る見附跡なる石垣に

千恵

(くす・五・た・己・國・啓)

◎白靴の歩幅大きく門を出づ

堂哉

(孤・く・千・啓・亜・け)

薫風や風の包みの解(ほど)かれて

啓子

(くす・忠・孝・正・○昇・三)

五点

田植待つ水田遠く津軽富士

五郎太

(くす・忠・允・啓・三)

母の日の鉢の名前はタカラズカ

正明

(と・堂・隆・昇・盛)

天守台孤松揺るがず青嵐

亜也

(健・孝・己・啓・け)

◎少子化を見下ろす雌雄のこいのぼり

盛雄

(孤・○健・た・隆・正)

四点

立ちかけてまたしやがみ込む朝顔市

孤舟

(忠・千・た・昇)

春時雨笑って駆ける二人連れ

けい子

(○くす・千・己・國)

三点

鰻割く禁断の書を開くごと

孤舟

(五・清・け)

葱坊主大器晩成かも知れぬ

くにお

(孤・○と・○堂)

杉林抜けて明るき緑雨かな

全

(と・國・允)

◎四つになり拍手高まる五月場所

五郎太

(孤・く・堂)

日比谷から二の丸跡へ薄暑光

全

(忠・啓・亜)

渡り切るあのかずら橋夏近し

千恵

(と・け・三)

桑摘みてその香纏いし家路かな
豆飯や湯気あわあわと仏壇へ
ハナ棒を担ぐ両腕やや細目
◎新緑の朝の山気や生氣満つ
下闇や出会ひ頭の蜥蜴の眼
草餅を母と分け合う日の匂ひ
◎一面にモザイクアート山つつじ

正己 堂哉 正明 昇 啓子 けい子 全
(くす・孝・亜)
(と・隆・百)
(た・啓・〇三)
(孤・た・百)
(五・清・百)
(く・孝・國)
(孤・龍・昇)

二点

海に雪崩るる千枚の青田かな
◎薔薇園の対で水吹くペリカン像
滝に落ち流れを迸る水白し
新緑の山なみ翼下出雲へと
青葉風日比谷の堀に亀ばかり
◎萬緑の樹々の間に光る空
尻尾取れ勇躍ジャンプ青蛙
短夜や四時には障子あけそめて
伎芸天の妙なる調べ若葉風
万葉の大和路をゆく柿若葉
◎背に青き柄行き美しき蛙居て
城垣を攀じて草引き忍びめく
青芝や大奥が跡渺茫

孤舟 五郎太 全 千恵 とみ子 千恵 堂哉 百合子 昇 啓子 亜也 全
(堂・昇)
(孤・く)
(健・己)
(堂・亜)
(くす・け)
(孤・國)
(清・百)
(龍・隆)
(清・己)
(允・盛)
(孤・千)
(孤・千)
(健・五)
(孝・三)

一点

更衣少し痩せも嬉しいけり
日比谷のタイサンボクに驚けり
新緑の香りが旨い井の頭
カピバラの鼻が動めく若葉風
噴水の軸高だかと日比谷昼
目には青葉疏水を下る蹴上まで
目に沁みるケヤキ並木の若葉かな
真つ黒き敗走兵よ木下闇
◎もう来たか五月満開この陽気
妖精の舞ひたる森の新樹光
早々と夏日来たりて蚊遣り火や
艶(なま)めける宵の風かや月下美人
何やらん不穏な空にホトトギス
鶯か目黒八雲で聲を聞く
◎十葉や十文字白き父母の墓
浮き沈む七十五日水中花

忠彦 全 全 全 全 全 全 全 全 千恵 とみ子 千恵 堂哉 百合子 昇 啓子 亜也 全
(龍)
(正)
(千)
(五)
(忠)
(盛)
(國)
(健)
(孤)
(〇盛)
(龍)
(〇龍)
(正)
(啓)
(孤)
(亜)
(孤)



【句 評・短 評】

七点句

緋牡丹の己が重みを持て余す

孤舟

千恵さん・・・確かに花が大きくて茎の負担が大きそうです。

昇さん・・・大振りの緋牡丹を支えている細い茎は本当に大変。

百合子さん・・・まさにそうですね。支えなしでは、持て余して頭垂れてしまいますものね(笑)

老鶯や二湖を眼下に賤ヶ岳

堂哉

允章さん・・・有名なこの山には登ったことはありませんが、素晴らしい景色が見えます。

亜也さん・・・余呉湖の湖面は鏡とか。歴史の余韻を映す？

五月来し九十七の誕生日

天牛

孤舟選者・・・長寿の誕生日。益々お健やかに。

五郎太さん・・・誠におめでとうございます。季語も、九十七というのもいいですね。

龍平さん・・・よろしおすなあー。

隆さん・・・わー、いいですねえ。体現の賜物。

允章さん・・・私も五月生まれですがまだ八十代です。

啓子さん・・・青葉会での最高齢でいらつしやいます。おめでとうございます！

盛雄さん・・・青葉会の長者の一句。素晴らしい。

六点句

石仏の笑みの濡れゆく走り梅雨

健介

とみ子さん・・・鄙びた路傍の石仏に 初夏の訪れを感じられたのでしょうか。(笑みが濡れゆく)が

素敵だと思いました。

百合子さん・・・風情ある情景をさらりと詠んだ一句。

五月病ベンチに重きスーツかな

健介

孝岳さん・・・新入社員の頃を苦く、しかし懐かしく思い出しています。「重き」が良く効いて、作者

の優しさが滲み出ています。

隆さん・・・観察力の勝利か。蕪村の「重たき琵琶」の句があるが、現代版ともいえる。

允章さん・・・サラリーマン時代を思い出します。

風薫る見附跡なる石垣に

千恵

五郎太さん・・・日比谷公園の入口はかつての見附、城門があったところとか。わが国初の西洋式庭園の

一部には、石垣や心字池が今も残っていることを、吟行の際に知りました。

ただしげさん・・・ここに日比谷御門があり、その石垣の跡らしい。

白靴の歩幅大きく門を出づ

堂哉

孤舟選者・・・白靴は見た目にも軽やかで涼し気。

千恵さん・・・さあ夏だ！衣替えと同じように作者の軽やかな気分を感じます。

啓子さん・・・今年初めての白靴。白靴と中七が響きあって颯爽としたご様子が感じられます。

亜也さん・・・気分を引き立てる一步。

薫風や風の包みの解(ほど)かれて

啓子

昇さん・・・中七下五が秀逸。一気に薫風が広がってくる。

五点

田植待つ水田遠く津軽富士

五郎太

允章さん・・・美しい景色が見えます。

啓子さん・・・遠景、近景を端正に詠まれ、水彩画を観るようです。

母の日の鉢の名前はタカラズカ

正明

とみ子さん・・・私の母が、大の宝塚ファンでした。きつと華やかなカーネーションのお花でしょう。

隆さん・・・「花屋の営業努力か。宝塚ファンを拝借。目下連載の元宝塚スター鳳蘭の日記記事

は面白い。華僑ならではのスターだったかも。

昇さん・・・お母さまはさぞかし宝塚ファン。ユーモラスな句。

盛雄さん・・・これはこれは愉しい佳句が出来ました。

天守台孤松揺るがず青嵐

亜也

啓子さん・・・皇居、天守台に美しい姿で構えるただ一本の松。この句全体から、堂々として崇高に
すら感じられます。

少子化を見下ろす雌雄のこいのぼり

盛雄

孤舟選者・・・出生率が過去最低に。鯉幟のお父さん・お母さんも心配顔。

健介さん・・・何気なく詠われているのに、私たちの不安な思いが見事に表されています。

ただしげさん・・・最近の話題を上手く詠んでいる

隆さん・・・語調から「の」はとってもいい。終戦で平和が訪れ、ベビーブームが起きた。ミサイ

ル購入や武器輸出で、出産・子育てに案じる若者も多いのではなからうか。空を泳ぐ
こいのぼりに訊ねてみたくなる句である。

四点

立ちかけてまたしやがみ込む朝顔市

孤舟

千恵さん・・・どれもこれも色や姿が魅力的で購入する1点を絞り込めない様子が分かります。ただ

下五が6文字なのが少し気になりました。

ただしげさん・・・ありふれた日常の動作を上手に詠んでいる。

昇さん・・・嬌めつ眇めつ朝顔選びに迷っている様子がよく出ている。

春時雨笑って駆ける二人連れ

けい子

千恵さん・・・突然の春時雨を楽しんでいるかのような二人（多分カップル）のようですね。

三点

鰻割く禁断の書を開くごと

孤舟

五郎太さん・・・ドキッとさせる句、なんだか艶めいた句です。

葱坊主大器晩成かも知れぬ

くにお

孤舟選者・・・見た目はまだ幼い坊主頭だが、将来は意外と人生の成功者になるかも。

とみ子さん・・・きつと大器の片鱗が見えるのでしょうか。葱坊主との取り合せがユーモラスで味わい

があります。

堂哉さん・・・中七、下五が素晴らしいですね！思わず、そうだよねと呟きました

杉林抜けて明るき緑雨かな

くにお

とみ子さん・・・青葉若葉がみずみずしく輝いて清々しい景が現れたのでしょうか。

允章さん・・・気持ちの良い雨。

四つになり拍手高まる五月場所

五郎太

孤舟選者……「がつぷり四つ」の正統派相撲の熱戦。

堂哉さん……来場所こそは横綱、大関揃った優勝争いを期待しています。

日比谷から二の丸跡へ薄暑光

五郎太

亜也さん……薄暑光が吟行の日の日和を言い得て妙。

渡り切るあのかずら橋夏近し

千恵

とみ子さん……あの祖谷のかずら橋でしょうか。渡ってみたいという思いを込めていただきました。

桑摘みてその香纏いし家路かな

正己

亜也さん……桑の葉には独特の香りがあるとか。養蚕に携わった往時の思い出？ただ、葉を摘むのであれば春の季のようです。

豆飯や湯気あわあわと仏壇へ

堂哉

とみ子さん……炊き立てを一番にお供する優しいお気持が、素敵です。（湯気あわあわ）も美味しそう！

隆さん……好物の「豆飯」だけでいただきました。「湯気は炊き立て仏壇へ」でも。

「仏壇」。一家を構えたら仏壇を備え、朝な夕な、仏壇を前にした時代があった。子は親を真似て育つ。容易に殺傷するニュースに会うと取り戻したい習慣である。

百合子さん……生前お好きだったのでしょうか。湯気をあわあわと表現、ぴったりだと思います。

ハナ棒を担ぐ両腕やや細目

正明

ただしげさん……花棒を担ぐ女性を遠回しに上手に表現している。

啓子さん……女神輿ですね！下五でそれを表現。なるほどと感服しました。

三恵さん……以前、ちよつとだけ、女神輿を担いだことがあり、その時の威勢の良い甲高い声が想起されました。

新緑の朝の山気や生氣満つ

昇

孤舟選者……朝の緑の空気には、生き生きとした気力・活力が感じられる。

ただしげさん……朝の清々しい気分が上手に表現されてる。

百合子さん……新緑の不思議な力、佇んでいるだけでエネルギーが漲って来ます。

下闇や出会い頭の蜥蜴の眼

啓子

五郎太さん……向こうも驚いてこちらを暫し見詰めたのでしょうか。

百合子さん……蜥蜴も驚いたでしょうね（笑）どんな眼をしていたのでしょうか。

一面にモザイクアート山つつじ

けい子

孤舟選者……山肌は一面色とりどりの満開の躑躅に覆われて。

龍平さん……自然の為せる巧。

昇さん……中七が絶妙。色とりどりの山躑躅は正に芸術。

二点

海に雪崩るる千枚の青田かな

孤舟

堂哉さん……佐渡で正にこの句のような青田を見て感激しました

昇さん……能登の日本海に落ちる千枚田の絶景は圧巻。

薔薇園の対で水吹くペリカン像

五郎太

孤舟選者……二基のペリカン型の噴水が水を吹き上げている。

新緑の山なみ翼下出雲へと

とみ子

堂哉さん・・・気持ちいいフライトでしたね！

亜也さん・・・機中での新緑への気付きと出雲への思い。雲がそれとなく呼応。
萬緑の樹々の間に光る空

ただしげ

孤舟選者・・・樹々の間から仰ぎ見る雲ひとつない青空。

尻尾取れ勇躍ジャンプ青蛙

堂哉

百合子さん・・・よく観察されているんですね。勇躍ジャンプで青蛙の様子が目に浮かぶようです。
短夜や四時には障子あけそめて

百合子

隆さん・・・短夜が効いている。「短夜や朝の勤めの雨戸開け」でも。

万葉の大和路をゆく柿若葉

昇

允章さん・・・関西には二十年程住みました。思い出がいっぱいです。
背に青き柄行き美しき蛙居て

啓子

孤舟選者・・・蛙をその声で愛でずに、その容姿を愛でて成功。

千恵さん・・・蛙にも個性があるんですね。

城垣を攀じて草引き忍びめく

亜也

五郎太さん・・・珍しい景に想像が深まります。「草引き」という言葉に風情があります。

一点

新緑の香りが旨い井の頭

忠彦

千恵さん・・・「旨い」の措辞に同感です！

カピバラの鼻が動めく若葉風

忠彦

五郎太さん・・・中山の動物園にいましたが、残った一頭が最近金沢動物園に移されたと言いました。
目には青葉疏水を下る蹴上まで

千恵

盛雄さん・・・京都の古き水力発電所、一人吟行でしょうか。

もう来たか五月満開この陽気

國護

孤舟選者・・・季節が不順となり、春・秋が無くなってきたようだ。

妖精の舞ひたる森の新樹光

昇

盛雄さん・・・森の新樹光に妖精の舞ひを感じるセンスに敬服。

早々と夏日来たりて蚊遣り火や

百合子

龍平さん・・・自然の為せる業は 年寄りが戸惑う事も。 巧だけにあらず。

艶（なま）めける宵の風かや月下美人

啓子

龍平さん・・・流石月下美人！ 何時も世の中に 潤いを提供

鶯か目黒八雲で聲を聞く

天牛

啓子さん・・・目黒区八雲は緑の多い地域ですね。閑静な住宅地で鶯の声。良いですね。

十葉や十文字白き父母の墓

盛雄

孤舟選者・・・キリスト教系の墓地に咲き乱れる白いどくだみの花。

浮き沈む七十五日水中花

盛雄

亜也さん・・・人の噂に我関せず？



【今後の 青葉会予定】

☆☆六月青葉会

日時：六月二十五日(木) 午後一時～

於：世田谷区施設 三軒茶屋 しやれなあど6階 部屋名：ビーナス

ご出句：句会ご出席予定の方は、5句。

ご投句の方は2～3句 を目処にお出してください。

ご提出先は 星田 PC 本会報をPCにて受け取られた方は、送信先星田宛。
或いはFAX 03・3421・9772

ご出句締切日は、六月二十日(土)

※郵送の方が居られるので、締切日をお守りいただけると幸いです。

☆☆七月 および 八月青葉会 (誌上句会と致します)

例年は八月のみ「誌上句会」としておりましたが、今年是一段の猛暑予想のため、七月、八月共に「誌上句会」と致しました。

選句日程 ○七月は二十三日(木) に選句表をお手許にお送りいたします。

ご出句締切：七月十八日(土) 中

皆様同条件にて 当季雑詠 2句～5句のご出句を承ります。

選句締切：八月 三日(月) 中

○八月は二十七日(木) に選句表をお手許にお送りいたします。

ご出句締切：八月二十二日(土) 中

皆様同条件にて 当季雑詠 2句～5句のご出句を承ります。

選句締切：九月 五日(土) 中



【青葉会報】

一、 五月は恒例の吟行を実施。先にお知らせいたしましたように、通常とは少し形を変え、作句のための散策は歩くのに楽で、且つベンチなど休むところも多い場所で交通至便な場所、原則として、日比谷公園と致しました。午前十一時に五郎太さん、ただしげさん、千恵さん、啓子と散策参加者四名に、忠彦さんがお嬢様とご一緒に日比谷公園内を散歩され、そのままご帰宅。また、すぐお隣が皇居となれば、と、亜也さんは東御苑を散策されてその後の会食にご参加。次いで、今回は散策には参加できないが・・・と孤舟選者が散策後の会食にお顔を出して下さり、六名の会食となりましたが、いつもと気分も異なり話題も豊富、亜也さんご案内の美味しい中華(日比谷・煌蘭)を頂きながら楽しい吟行と会食になりました。こうした自由度の高い吟行イベントも悪くない、と思いますので、今回はご参加叶わなかった方々も、次回は一部でもご参加いただけると有難いと思いつつ散会致しました。

一方、句友のみなさまからのご投句も、先にお近くを散策されて吟行気分では非作句をとお願い致しましたところ、きつとそうして下さったに違いないと感じる句も散見され、ご協力に感謝申し上げます次第です。

今回のご出句は十九名、ご出句数は七十二句でした。選句結果はご覧のとおりで、当季雑詠、吟行句を分けずに一緒に選句いただいたこと、夫々に世相を映したり、美しい句が並んだこともありましか、票が大幅ばらけました。

最高得点は七点・三名で、青葉会最長老で九十七歳となられた天牛さん、孤舟選者はご常連、堂哉さんの句も今回も入りました。お句から天牛さんのご年齢が改めて認識でき、お祝いの言葉が並びました。次いで 六点句に健介さんが二句、千恵さん、堂哉さん、啓子が並んでおります。

一方、ご覧になってお分かりのように、三点句が十二も並び、二点句、一点句も多く、それぞれにみなさまのご評価が行きわたったようにも思え、青葉会らしいとも感じて嬉しい思いすらいたしました。

【関係者近影】

孤舟選者 近影

初蝶はひかりの使徒やひらひらひら

引鴨の扇開きに発ちにけり

この先の筋書き知らず蜥蜴出づ

漁火のひとつ朧に燃えてをり

洛陽の転がつてゐる半仙戯

「きさらぎ」の関係者近影はおやすみです。

(了)

令和八年六月吉日